

第10回 キャンパスツアー

美観地区の3D映像に感嘆

情報科学キャンパスと防災センター

第10回キャンバスツアーアを2016年6月22日に開催しました。旧3大学の卒業生およびその家族の39人が神戸情報科学キャンパスと兵庫県人と防災未来センターを見学しました。

神戸情報科学キャンパスでは、応用情報科学研究科の西村治彦科長、シミュレーション学研究科の畠豊科長からそれぞれの研究科の内容紹介がありました。そしてシミュレーション学研究科の3Dシミュレーションを体験しました。3方のスクリーンに映しだされた場面が立体的に見えるだけでなく、首を左右に振ったり、しゃがんだりするとそれに応じた角度で映像が変わるものでした。

その場面は倉敷市の美観地区で、有名な白壁の色を変えるとどんなイメー



スクリーンに映し出される倉敷市の美観地区の3D映像に見入る見学者たち

ジになるかが分かるようになっています。そして隣接する理化学研究所のスペコン「京」では、計算速度としては現在世界第4位です



情報科学キャンパスの見学を終えて、玄関ホールで研究科長らを交えて記念写真

「五国豊穣」に込めた思い 県立大学のCOC事業

兵庫県は但馬・丹波・播磨・摂津・淡路の「五国」からなり、地域ごと多彩な県民生活が送られています。そして、それぞれの地域が持つ課題に向けて、文部科学省の「地(知)の拠点整備事業」(Center of Community)として県立大学が活動しています。活動内容と提携している町市は次のとおりです。

- 地域資源マネジメント系
豊岡市、丹波市、篠山市
- 多自然地域再生系
養父市、佐用町
- 産学公連携系
姫路市
- ソーシャルビジネス系
尼崎市
- あわじ環境未来島構想系
淡路市、洲本市、南あわじ市
- 地域防災・減災系
淡路市、洲本市、南あわじ市
神戸市

第11回 エコフェスティバル 地域住民も参加

姫路環境人間キャンパス

平成28年7月3日、姫路環境人間キャンパスのホームカミングデイとして、学友会が協賛する「エコフェスティバル」が開催されました(写真右は案内看板)。参加者は環境人間学部の学生、地域住民、ゆりのき会(同窓会)会員など合計約400人に上りました。イベントとしては学生による模擬店、スタンプラリー、bingoゲームなどがあり、ゆりのき会は自主講座(華道、書道、リフォーム)の発表をしました。



《編集後記》学友会報は本号で第3号を迎えました。本会の行事などの活動をお伝えすることはもちろんですが、大学の現況をお知らせするのも重要な目的としています。大学の目的は教育・研究と社会貢献です。今号は産業界との連携について詳しく紹介しました。総合大学の強みを發揮し、学部の得意分野を活かして活発に動いています。また、地域に根差した事業の展開も成果を上げています。ますます大学の活動に目が離せません。(K&A)

兵庫県立大学 学生応援基金

未来を担う本学の学生を応援するため、卒業生・保護者・教職員などを中心に団体・企業や一般の皆様から寄付金を募り、それを原資として兵庫県立大学学生応援基金が設立されました。応援対象活動としては

1. 防災教育・ボランティア活動
2. 地域創生への取り組み
3. グローバル化への対応
4. その他

としており、ふるさと納税としての優遇措置が受けられます。

お問い合わせは学生応援基金事務局(TEL:078-794-6580)まで

が、安定した運用効率などを考慮すると、速度第1位の中国のスペコンよりも優れているとの説明を受けました。

バスでHAT神戸(神戸市の東部新都心)に移動して昼食を取った後、兵庫県防災センターを見学しました。阪神淡路大震災や東日本大震災の記録を見学しました。生々しい震災の惨状を目のあたりにし、参加者の中には実際に被災した人もその時の思い出をかたっていました。

東北大地震を3D映像で記録した記録映画を見ました。あいにくの雨天でしたが、参加者の皆さんの中には、キャンパスの見学だけでなく、旧交を深められ、昔話に花を咲かせていたグループもありました。